

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172400257		
法人名	(株)やま		
事業所名	グループホームうららびより関ヶ原		
所在地	岐阜県不破郡関ヶ原町大字関ヶ原3384-3		
自己評価作成日	令和4年1月6日	評価結果市町村受理日	令和4年3月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&i_gyosvoOd=2172400257-00&SerVi.ceOd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地		
訪問調査日	令和4年1月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・令和4年春に新ユニット・うららびより関ヶ原 彩館(いろどりかん)を開所致します。認知症のある高齢利用者様の日々の生活に彩を添え、その方々の暮らし方を振り返り、その時々輝き彩られた記憶の中で「確かに生きていた」実感を思い出してほしいと名付けました。同じく職員も自分の生活に彩を添えてほしい、人を支援する仕事を通じ目標を設定し達成に向け進める喜びをつかみ取ってほしいと考え、うららグループで人材育成教育制度を整えています。
・共用型デイサービス3年目に入り認知症で独居生活利用者様にはご家族、居宅ケアマネときめ細かく連携を取り合い支援に繋がっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「明るい笑顔と思いやり」を理念に掲げ、コロナ禍で外出や地域・家族との関わりが制限されるなかで、利用者が楽しく生活できるように努めている。大学生とズームを活用し利用者に合わせたゲームをする、旅行動画を見て旅行気分を味わう、季節行事を楽しめる等の工夫をしている。野菜や果物を育て、季節の移ろいを窓越しに眺めたり収穫を楽しんだりしている。各種レクリエーション機材の借用、DVDの活用、ICT機能を駆使し、利用者の日常生活が潤い笑顔が増えるようにしている。保育園には、職員がサンタクロースや節分の鬼に扮して、利用者が袋詰めしたお菓子を届けている。職員の育休取得や子連れ出勤も可とし働きやすい職場にしている。記録のICT化を目指し職員会議はズームで行い、本社とも連携し資質向上に向け努力している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時に職員で考え作成した理念を掲示し「住み慣れた地域で暮らし続けられる」を念頭におきスローガンと共に毎朝唱和し日常の業務の中で振り返りの基としている。	理念を意識してケアできるように、毎朝の申し送りにスローガンと共に唱和し、職員会議で話し合っている。お互いの動きを知ること、言葉を発する前に一呼吸置き、利用者の言葉を持つことを大切にして実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染症の拡大で地域の行事中止に伴い日常的な交流も途絶えがちだが、散歩中近所の方々と挨拶を交わし、小中高生たちと声掛けや世間話が出来た地産所や喫茶店に利用者で作った粗品を置き配布している。	利用者が広告チラシで作ったゴミ箱をラッピングし、近所の八百屋や喫茶店に置かせてもらっている。保育園から芋や手紙をもらい、お礼に利用者とお菓子を届けた。登下校時の子どもに事業所前の道路で挨拶や声かけしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	共用型サービスで認知症の独居の方、老々介護、若年アルツハイマーの方等の困難事例を受け入れ家族支援をし認知症の人の理解支援の実践を通じ地域還元している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設内の様子を知りたい、どんな生活、どんな利用者さんがおられるのか様子が知りたいとサービス利用者家族の強い要望で推進会議(リアルで3回)に参加され、行政民生委員他家族と意見交換や生の在宅介護の実情を聞いている。	2ヶ月に1度の期間に関わらず、コロナ禍が落ち着いた時期に、対面での会議を実施している。書面で行う際は、事前にアンケートで意見をもらい、メンバーにまとめた結果を送付している。認知症カフェや地域行事の情報ももらっていた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	新棟増床に関し相互に協力体制をとり開所に向けて指導や連携を取っている。	コロナ禍で電話やメールでの連携が多く、町主催のズーム研修に参加し情報を得ている。新棟増床に伴う書類やICT化への補助金等については、担当者に相談し連絡を密にし実情を伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束禁止の対象となる具体的な事例について研修や職員会議勉強会で安全でかつ自由な生活を実現するため理解を深めるよう取り組んでいる。担当委員を選出しスピーチロック等の行動制限も拘束と認識し「その方の言葉を待つ」を指針としている。	センサーマットを使用していた利用者について、職員で検討・話し合いを行い、人感センサーに変更している。身体拘束等の適正化のための指針を定め、委員会を開催し職員への研修を実施しているが、委員会としての記録がされていない。	身体拘束・虐待防止対策委員会として開催した際に、検討課題や実施内容を記録し整備することが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止研修会へ全職員が受けられる様取り組んでいる。厚生労働省の定める権利擁護推進員養成研修に参加終了した職員を中心に職員への虐待防止強化を図っている。		

グループホームうららびより関ヶ原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方の身上監護人さんとは推進会議やホーム活動へ参加して頂き、関係者との必要な支援体制について常に連携をとっている。今後、理解出来るよう包括とも連携していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には詳細な説明を行い理解の上契約を結んでいる。改定時には書面や面談を通じ理解を得る様努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの要望で食事の実際を知りたいとあり写真で内容をお知らせしている。うらら通信や推進会議事録に施設状況報告とともにうららグループ施設全体の活動も知らせている。また感染対策設備に陰圧装置を一室に設置した。	ズーム利用の面会時、電話、メールや手紙で家族からの意見や要望を聞いている。毎月、利用者の写真と近況を記した手紙を送付し、意見が言いやすくしている。家族の要望で、食事内容を写真で報告するようになった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの議題提案書で声を上げてもらい、意見を吸い上げ職員会議で個々の問題について、カンファレンス、業務改善実践に繋げ検討、解決策、検証している。高齢化に伴い風呂設備の改修要望は4年度に取り組みを予定している。	毎月の職員会議で意見を出したり、いつでも出せる議題提案書から出たりした意見を話し合っている。レクリエーションの材料購入、段差へのスロープ設置、玄関の境界線にシールを貼り躓き防止策等をした。一定額以上は本社に上申する仕組みがある。希望休や研修希望を叶えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価査定の個人自己評価から管理者、本部査定へ繋げる様整備されており個々の努力、実績勤務状況を把握し、やりがいのある職場作りの整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	うららグループでは人材育成プログラム(1期半年)を4期目となり今年参加予定。外部講習含めケアスキルアップ、施設運営チームリーダーを目指す。外部講師座学あり。評価を経てキャリアアップできる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員レベルでのうららグループ他の業態の違う施設と交流しお互いのサービスへの取り組みについて相互理解を深める機会を持ちたいと思っている。		

グループホームうららびより関ヶ原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に見学、面談を行い、ご要望や心配な事等をよく聞き安心して頂けるよう努力。入所後も他者との関わりを持ち早く安心して生活して頂けるよう積極的にコミュニケーションを取り本人の思いを傾聴し関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の面談の際には、ご家族の意向や不安に対して聞き取りを行いホームで可能なこと、不可能なことを説明しご理解頂くよう努めている。入居後もお手紙や行事の写真などを送り報告している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前情報を元に入居の際はご本人、家族の話をよく聞き、今何が必要かに焦点をあて、今後の支援も見通す対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で家事作業(洗濯たたみ、食器拭き、食事の下ごしらえ等)を行って頂きながら利用者の方が主体となり作業する時間を作るよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月職員からご本人の様子をお伝えする手紙を同封させて頂いたり、面会時にお伝えすることで家族の方もご本人の状態の理解把握に努めて頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で難しい状況のため、外出や面会を頻回に行うことは出来ないが、少人数の地元へのドライブやリモート面会を利用して頂きながら関係継続の支援に努めている。年賀状や家族知人から届いた手紙に返事を出せるよう支援している。	携帯電話を所持する利用者には、操作や充電の声かけを行っている。手紙や年賀状を書く人には宛名の確認をし、電話の取り次ぎの支援をしている。入居前に住んでいた地域や神社等へドライブし、車窓から景色を眺めてもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関わりを見守りながら必要に応じ職員が介入しながら過ごして頂いている。利用者同士の共通の話題や興味を引くような話題を提供し楽しく過ごして頂けるよう努めている。皆で一緒にゲームを行ったり利用者同士の交流がみられる。		

グループホームうららびより関ヶ原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームにて終末期を迎え亡くなった時もご家族が生花等別々の形で定期的な訪問はある。自然な形で関係が継続出来るよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人が望んでいる生活を利用者同士の会話や職員とのコミュニケーションから、思いを把握しプランに反映している。利用者へ寄り添い話を聞くことでヒントをもらい実践している。話をすることで出来ない方には表情やしぐさで判断し希望志向を汲み取るよう把握に努めている。	利用者が話しやすいよう、居室や静かな場所、お風呂でゆっくり話を聞き、思いや意向を把握している。困難な人には、顔の表情や動きから推測している。飲み物の温度やセレクト食は希望に合わせている。起床時間が遅い人には、朝食時間をずらし対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前情報を元にどのような生活をされていたのか、望まれているかをコミュニケーションや日々の過ごし方を通し把握している。一人一人の思いや希望を日々の暮らしの中での言葉や表情、行動で汲み取り記録し職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々変化する利用者の方の状況把握のため一人一人の方とコミュニケーションをとるよう努めている。その日の状態を記録に残し情報共有している。個々の生活リズム、心身の状態を把握し小さな変化も気を付けるよう注意している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の変化に応じたケアを迅速に行えるよう課題が上がればその都度ミニカンファを行ったり情報収集に努めて改善しより良いケアの提供に努めている。毎月のカンファレンスの際、利用者様個々の状態を確認し支援方法を考え見直しも行っている。	事前に本人や家族に意見を聞き、医師には受診表で意見をもらい、入居時は1ヶ月、その後は3ヶ月でモニタリングし見直しをしている。毎月の職員会議で利用者の状態確認をし、必要時は見直ししている。ミニカンファレンスで話し合い見直す場合もある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各職員がその日のご様子や気づき等を個別記録に残し、全職員が目を通し共有している。また申し送りノートの活用ケアカンファレンスなどにより職員の気づきの共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族対応が困難な方に対しての受診送迎や通所の方への必要なニーズを職員間で気づき話し合い、個別に支援に繋げている。家族が気楽に出入りできる雰囲気作りまた毎月のお便り写真で様子をお知らせしている。		

グループホームうららびより関ヶ原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での行事や催し物に参加、今までの馴染みの環境を支援してきたがコロナ禍に伴い以前の様な参加は出来ていない。ホームで花や干し柿作りなど世話する中でご安全豊かな暮らしを楽しめるよう努めている。また大学とズーム交流でゲームやいちご狩りを行い対面ではなくとも交流できる場を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様や家族に添ったかかりつけ医を中心として受診連絡票で連絡を取りながら関係を築き、個人に合った適切な医療が受けられるよう支援している。受診が必要な場合や希望があれば日程調整を行い職員が受診に付き添っている。	以前からのかかりつけ医、眼科、整形外科受診に家族が同行する時は、事業所での様子を受診連絡票で伝え、医師からはFAX等で指示を受け連携している。歯科の訪問診療、訪問看護を希望で利用する人がいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護を受け、日常の関わりの中での気づきや変化を書面や口頭で伝え、適切な対応や助言を受けている。NSより糖尿病やインシュリン注射についての勉強会やPTから体操など定期的に設けている。異変があれば迅速に看護師と相談して適切な対応が出来るよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、医療機関へ出向くなどして状態を把握。担当NSとの情報交換を密に行うようにしている。環境の変化により認知症が進まない様面会等で支援、連携している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	出来る事と出来ない事を明確にし今後のあり方や活用できるサービスがないかを主治医、家族、訪看と相談しながら支援に取り組んでいる。	入居時や状態に合わせて、家族に意向を確認している。重度化した場合は、職員も同席し医師から家族に説明し希望に合わせている。医師の指示で栄養剤の補給、水分にトロミ剤の使用や食事形態に配慮している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故、急変時スムーズに対応出来るよう希望搬送先やご家族の連絡先再確認、緊急時の職員、招集は連絡網を通し定期的にデモを行っている(新しい職員が入った時など)		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署立ち合い避難訓練、利用者参加で行っている。夜間の2階利用者の緊急避難方法を中心に行い、対応の助言をもらった。運営推進会議では自治会役員の方より夜間に避難時には応援に来ると言われている。災害時の備蓄は定期的に補充、点検を行っている。	毎月の通報訓練と利用者も参加する避難訓練を年2回実施している。水、米、食料品やオムツ等を備蓄している。簡易担架搬送訓練や利用者が防災頭巾を被った訓練もしているが、夜間想定訓練がされていない。	夜間は職員一人での対応となるため、避難場所、避難誘導順の確認等、咄嗟の非常時に安全に落ち着いて避難できる訓練が望まれる。

グループホームうららびより関ヶ原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各部屋のドア窓に目隠しシートを貼りプライバシー保護が出来ている。言葉には注意しているがネガティブな言葉など言う時がある。	利用者の話し言葉や行動を尊重し、待つ姿勢を心掛けている。職員同士で気をつけ、気になる言葉があると注意している。居室のポータブルトイレにカバーを掛け、物入れの段ボールは包装紙を貼っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活でのコミュニケーションを図り本人の思いを引き出せるように努めている。職員と一対一で会話が出来る時間や空間を大切にしていきたい。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合で行ってしまいがちであるが個々のペースや体調に合わせて対応を変更し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で鏡を見たり、身なりを整えて頂くことで身だしなみに気を使われている。月に1回の散髪。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	もやしのひげ取りやお皿、お盆拭きなどの手伝いやみかんの収穫や干し柿作り、誕生日会や月1回のセレクトメニュー食事でも季節を感じて頂いている。	蒧の皮むき、野菜の下拵え、お盆や食器拭き等を職員と行っている。漬け物、干し柿、切り干し大根、お好み焼き、おはぎ、五平餅等を手作りしている。誕生会の希望を聞き、ハンバーガーや寿司等のテイクアウトを利用し楽しみな食事に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	こまめな水分補給(お茶、スポーツドリンク、ヤクルト)体重変化の取り組み、栄養スクリーニング咀嚼や嚥下体操に合わせた、食事形態を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に行ってもらっている。拒否された方には声かけの工夫、職員を代えたり、うがいのみでも行って頂いている。		

グループホームうららびより関ヶ原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の力やパターンを把握し誘導、介助している。排泄表を確認し、職員で連携をとっている。	利用者の排泄パターンを把握し、チェック表で確認しトイレ誘導している。トイレ、→、便所と大きく表示した貼り紙で分かりやすくし、自立できるようにしている。リハビリパンツから布パンツに改善した人がいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスの良い食事を心がけ、日課にしているラジオ体操に参加してもらっている。水分補給を定期的に行い、個別の要望には(医療的な)制限がない限り都度応じている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ひとりひとりの力に合わせ、着脱、洗身を施行している。プライベート空間のため、会話も楽しまれている。	季節の柚、菖蒲、薬湯や入浴剤を希望に合わせている。状態に合わせて手浴、足浴、清拭や二人介助での対応をしている。順番や同性介助に配慮している。ゆっくり話を聞いたり、歌を歌ったりして入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息できるスペースをとり、ベッドやソファにて過ごされている。午後からの入浴により安眠して頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	勉強会を行ったり、服薬へのファイルを作り、変更時の対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活において、個々により興味関心のあることに目を向けお手伝いに参加してもらっている(食器拭き、洗濯たたみ)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍をふまえての家族支援に努め、ホーム周辺の日光浴、季節の行事により、室内でも楽しめる支援。	好天時は近所の散歩に行っている。プランターの花への水やり、畑の草取り、野菜や果物収穫、外気浴をする等で外気に触れる機会を作っている。敷地内に新設する工事で限定されるが、屋外でお茶を飲んだり弁当を食べたりしていた。少人数でのドライブに出掛けている。	

グループホームうららびより関ヶ原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員と一緒に買い物に出かけ支払いもできる様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	特に制限なく、電話や手紙が出来るよう支援するが、家族の意向や状況により、様子を見て行う事があるZOOM面会も定着している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	汚れやすい場所(食堂、トイレ)は定期的な清掃消毒を行い、清潔を保つ。窓辺は換気や日光浴が出来るよう天候や季節に応じて、ソファを使い過ぎて頂いている。換気は定期的に行う。	リビングに、行事写真や季節に応じた花や作品を飾っている。空気清浄機の設置、1時間毎の換気、日に3回消毒を行い感染予防対策をしている。新聞や雑誌を読む、塗り絵・パズルや折り紙をする、日記を書く等、自由に過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂(リビング)とホールといった共用空間ではソファやテーブルを移動し、個人で集中した作業ごとや皆で集まって行うレクリエーションを臨機応変にすることが出来る。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の気持ちや希望に沿って、居室作りを行うが、危険を伴う家具や物(角があるもの、割れやすいもの、転倒の恐れがあるもの)は、本人や家族と相談し置くかどうか検討する。	馴染みのチェスト、TV、時計や寝具類を持ち込んでいる。家族写真、誕生日の色紙、人形や自分の作品を飾っている。利用者の身体状況や動線に合わせ、危険への配慮をしている。本を読んだり書き写したりしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の体調や、身体状況に応じて居室やトイレの移動が出来るように共用空間での席の位置を変えたりし、車椅子の必要な方は、移乗のしやすい席に座ってもらう等の工夫をしている。		